

【研究室紹介】

快適な衣生活を科学し、「きもの」文化を伝承・発信する

薩本弥生

横浜国立大学 教育人間科学部 家政教育講座

はじめに

本研究室の主な研究テーマは被服の快適性で、中でも運動機能性の問題と温熱的な快適性の問題の2つを柱としている。着衣（靴、オムツ、肌着等）の熱水分移動と快適感、暑熱時の体温調節反応と被服による熱中症予防への貢献、ブラジャー（授乳期、就寝用等）の着心地等の研究テーマに取り組んでいる。また、被服衛生学分野からは脱線するが、きもの文化の伝承と海外発信に関わる教育プログラム開発を目指した授業研究にも取り組んでいる。主なものを以下に紹介する。

最近の研究

1) 着衣の温熱的快適性に関する研究

温熱的快適性には、着衣の熱水分移動性が影響し、通気性や保温性等の素材要因や衣服のデザイン等の構成要因、環境の気候条件等、様々な要素が影響するので、人間-被服-環境をシステムとしてとらえ、複合的に評価している。

被験者による着装実験や、サーマルマネキン等のモデル装置を用いた実験を行い、環境に応じた最適な着衣の条件を検討するため、着衣の熱水分移動性能への風、動作および着衣のデザインによる影響を評価するシステム構築を目指している。着衣のふいご作用による換気は、人体からの熱水分移動性を促進させるため、蒸れやすい着衣の温熱快適性向上に重要である。そこで、トレーサガス法を用いて着衣の換気量の分布を評価し、これを用いて温熱的に快適な着衣のデザインを検討する評価法を構築することを目指している。オムツ、革靴、レインコート等、蒸れやすい被服の蒸れ防止にふいご作用がどう寄与するか、検討している。

一方で、暑熱環境下のスポーツ時の熱中症予防に向けて、人間周りの温熱環境の改善のための実際の生活環境での温熱環境状態計測を連続して行うシステムの構築に取り組んでいる。そこで、温

熱環境の人、着衣、環境に関わる温熱環境物理量を計測し無線で集積し、同期して人の温熱的快適性や心身負荷の指標となる温熱生理計測（耳孔内温、心拍、代謝量、皮膚温、衣服内気候等）と心理計測ができ、被験者に装着負荷が少ないウェアラブル無線センサシステムを開発し、着装時の環境状態および人間状態の計測・分析・評価を試みる。取得したデータからの熱中症行動・状態モデルの構築と新たな評価指標による熱中症予防支援システムを構築することを目的とする。

2) きもの文化の伝承・発信を目指した授業研究

日本のきもの文化の魅力をもつ日本の子どもたちの心に伝え、継承・発展する芽を育て、外国の子どもたちの日本理解や文化交流の促進に貢献できる体験型教育プログラムの開発に共同研究者と一緒に取り組んでいる。服飾の色、柄、形等は、地域や時代によって異なるが、きものに込められた昔の人の生活の知恵や技術、美意識等が、国を越えて現代の衣生活やコミュニケーションに生かされるようになると良いと願っている。

以下にゆかたを中心にきもの文化を理解するための e-learning サイトを作成したので、ご覧いただきたい。<http://kimono-bunka.ynu.ac.jp>



San Francisco でのゆかた着装ワークショップ
(齊藤先生、川端先生および埼玉大学・本学の参加者と)

<連絡先>

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2
横浜国立大学教育人間科学部 薩本弥生
電話・FAX：045-339-3307
eメール：satumoto@ynu.ac.jp